

官版

語彙

卷十三

813.1

M753g

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue

Cyan

Green

Yellow

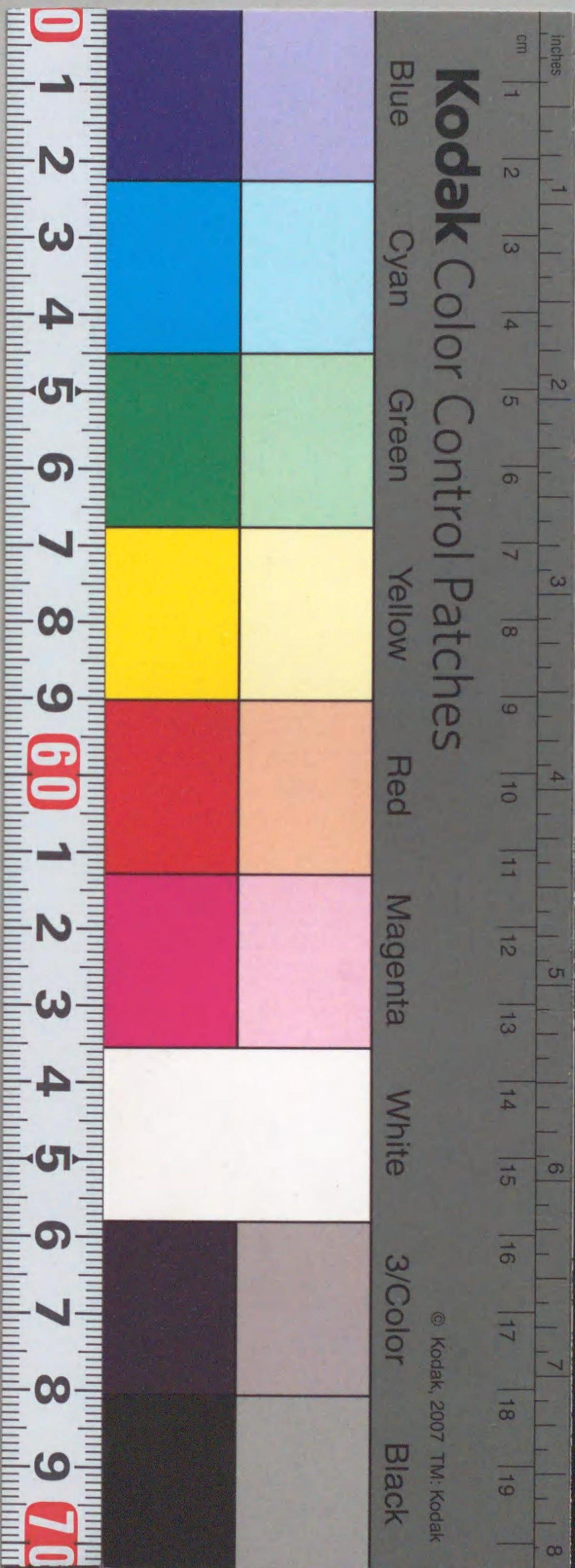
Red

Magenta

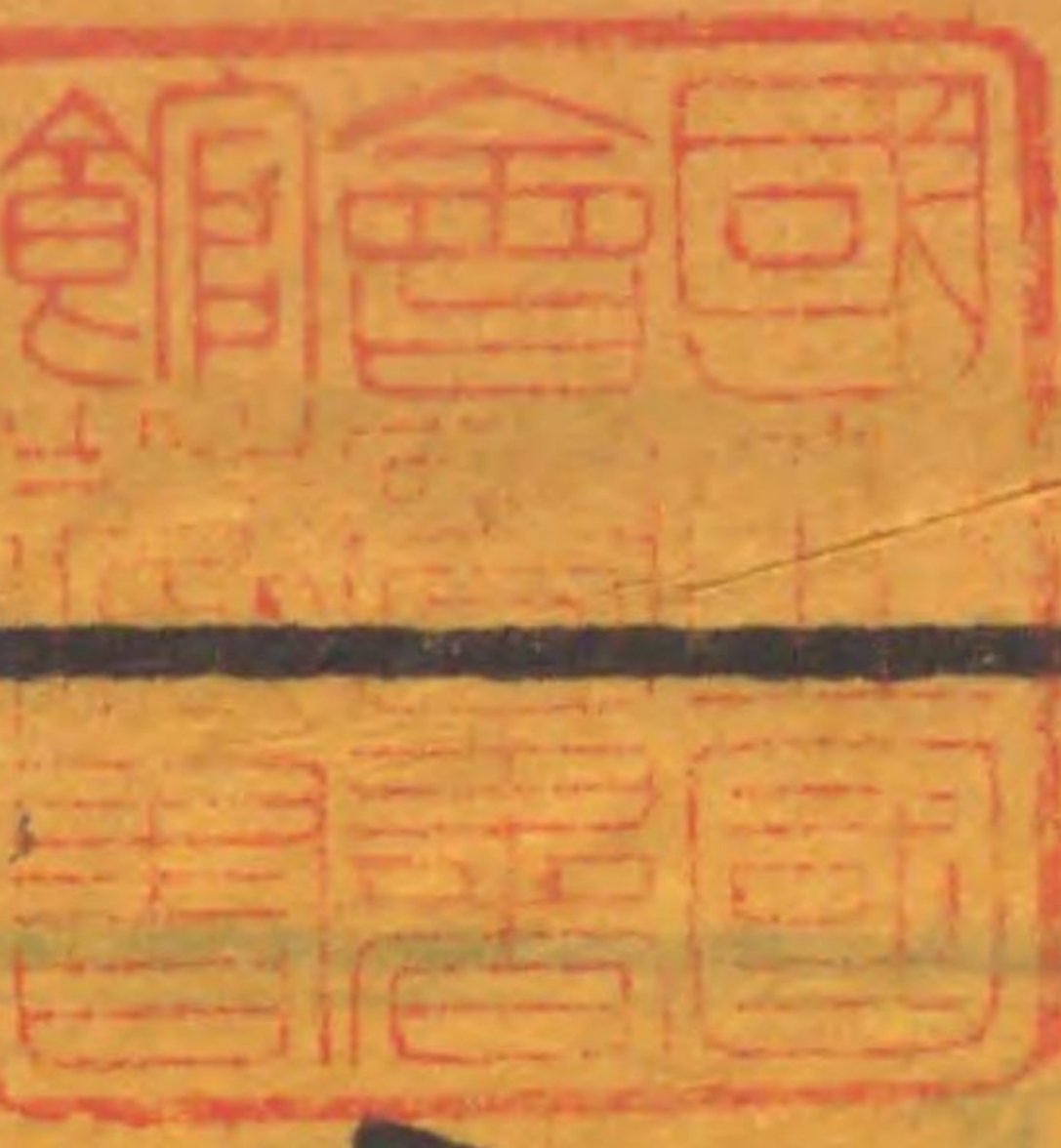
White

3/Color

Black



明治十七年七月



語彙

衣之部

文部省編輯局



国立国会
29.7.22
図書館

338005

語彙卷十三

衣部

え

え

え

え

え

え

ぶ裾の得行てはてんかばーおもほ申伊をんあのおりまどーうりけるを
古今戀三 おもほむ人めづるこれ高けれわかるとるあづえとそわてら
ね字 俊雅 とくうげ心ふまごひて
こころあるにえせぬこころあ

善きをいふ 記上 亦使何神之吉 天智紀 奈
余能都底舉騰多拖尼之曳難武
上條よまを出て能止る意あり用言小冠ら
せていふ 万+ ひこほーの河瀬をわくるさ我

兄をいふ 記上 僕兄兄宇迦斯 雄畧紀 兄君弟
君又 兄媛弟媛

胞衣をいふ 神代紀上 以 淤路洲 爲 胞生 大日
本豊秋津洲 景行紀 一日 同胞 而 雙生

草木の枝をいふ 万ニ 磐白の濱松の枝を引結
びまをさくあゝかかへりまん

手足をいふ 雄畧紀 張夫婦四支於木

え

ふらふらびもいな

器の把る所をいふ 内匠式 大笠柄二枚 六帖 をのくえちちちあば又もまどげのゆるんりき世の中

え

を聞き豆大の實を結ぶ生緑熟をれば黒褐味甘 一 ○ 朴 万夫 吾門の櫻實もり ともむ百千鳥ちどりと来れど君どまきまき 和 櫻 衣和名

え

木名、高者三四丈ふ至る葉楸ゆして先光り葉此先小鋸齒あり枝間小五生を夏初淡緑の花

雨傘小塗るものあり 和 荏 和名

え

小あぢ人残思ふぼろりあれ 伊 こわり江小思ふ心をいのでるも舟さひさをのさしてある 履 入江をいふ 記 久佐迦延能伊理延能波知須 六帖 湊いりの浪さわがしとあまよふえ

え

うるの體言 万 あれりもやまきこころえり皆人の得難 小 ままふやひこころえり 櫻の音あり冠の中子より後方へ垂るもこれをいふ立えい垂えい巻櫻細櫻等の目

えい 音

あり 西宮 加茂祭警固衛府公卿巻櫻着綾云々 唐物語 御手をさしやりて此男のうらぶりのえいをとりて 永の音なり永錢小同ト ○ 永榮詠等の字音古来延の音小唱来れり韻書小撮て怪むべし

えい 音

らん

えい

えいの 音

えいのむ 音

えいぐわ 音

えいざん 音 俗

大き七八分又淡紅あるあり ○ 白花酢漿草

えいざん 音 俗

草名、地柏小同ト

えいぎんすまれ

草名胡荽草フセ下同

えいぎんはぐま

心より莖茂抽き花茂開く車葉のはぐまの如く但微く小

草名鬼督郵の一種深山クニツチに生じ一根一莖長三四寸葉ハ草棉クニツチの如く粗く分れ六七莖對生中

えいぎんびる

草名菘葱スウソウ下同

えいぎんゆり

草名蕎麥葉貝母ソウマク下同

えい志やく

尊き位をいふ今昔東の方より榮爵尋て買はんと思ひて京より上りくる者ありたり

えいむらさ

野中ノナカ小哥コガの上の句を詠むる聲あり詠哥大概イハコ於古人歌多以其同詞詠之太平ヘイヘイいのりとも神カミやまろけんぐげをのりノリ川カハのふるき思をとえいせさせたまふ

えいせん

永樂錢エイラクの畧あり中古永樂錢一貫茂以て金一兩イクリ不換フカンより起りて金銀の會計ケイは猶此目を

用の来れり

えいらん

天皇の御覽をいふ平家もろぢの山と名付てひまもひふえヒメゆらんあるに

えいりよ

天皇の思オモのめをいふ太平常トコ不フ敵慮トクをめぐらされメのども

えり

魚名海鰻魚ウナギ下同

えり

要ヨウの音ネあり要ヨウ用ヨウをいふ伊その男身オノミをえりあき物アキモノは思オモひあア今昔イマコト十月許トキヨリ小衣コエ

の要有ければ

えり

要用ヨウヨウある事コト茂モいふ今昔三四月許ミツヨリ過スて要ヨウ事コト有アて貞道東國マコトの方カタ行ユクふ今昔

えり

要ヨウの音ネふて未ミ未ミをいふ宇女メこれコノをコトりてもちてえりト給タマふ今昔所トコロ々々よもていイさサそソわ

ほくふるあアてきキぬ布ヌあどアうウひヒて其ソノまマらラをコトい

えい

驚嘆の聲

醜惡汗穢の事物を見聞て悪く疎む聲あり紀上
疊々志夜胡志夜此者伊基能布曾○又俗小

えいり 音

榮花小同ト又俗小轉トて驕奢をいふ慶節
榮耀平他字類抄榮耀サカエヒカルコト

えいの 音

垣下小同源白宮北むきふむくへてえいの
こまごち上達部の御座あり

えいのち

心得がゆあるをいふ枕なんでもことなき人のま
ろよえちちよて物つてういひたる

えいば 音

小兒腹痛の病残いふ
和瘡衣賀波良

えいそ 音

驛通の音らまつぎをいふ

えいれい 音

驛馬出ひ為の公の驗とて賜る鈴あり
公式親王及一位驛鈴十刺

えいれい 音

疫癘の音後記壬辰勅如聞疫癘之時民庶相
憚不通水火存心救療何有死亡

えいこ 音

依怙の音理小從まひ私まをいふ
庭訓敢以不可存自由依怙

えいひいさ 俗

依怙小同ト

えいぎけ

魚名鮠小同ト和鮠云々一云江蘇令
按本文未詳

えいさ 音

他小物を與へ又他の我小與ふるをいふ又轉ト
て敬語めいへり字拾ちのらよより得させ

給へる馬あり云々皮もぎてつひ侍らんえいさをおはね云々
其ときうへへいえいさを給へ

えいむる

他の我小物を得させたるをいふ記上欲得水
万世足引の山行へる山人の我小依志米之山づ

えいごころ

えいせ

事物の鼻きをいふ又其物小似て全うらぬを
いふあり枕昔もえいせとのもあすきをいふ

うこそありけれ又えいせぶるまじりあけて又えいせうあつめき孫はれ
て今昔昔但しえいせとのふまを候めれ其故ハ實代鬼神あふ巴の名をあそ呼べ

きふ無名抄上えいせうたよみの秀句ふい
多くたうぬこし出るぞう

えいせひ 周防 俗

木名榎木をいふ

えぞ

セト秋のよれ月新古新古みちねのいもで志のぶまゝえぞくくらぬ

えぞぎく俗

心は筒辨攢る紫紅白の三種あり又秋月種る者も夏初花茂開く

えぞすくれ俗

小同く大あり只其莖兩枝を對一分つを異とく○胡董草

えぞふく俗

爪の龍を最く三爪四爪の者これよ亞ぐ

えぞ

ちくく君は戀わくものも和枝條和名衣太類名和名衣太肥又肢テ

えぞの轉りて北海道の古稱あり夫十三十三のどくありむまゝまゝまゝまゝのくれえぞくふまゝ

草名子を種て生じ葉雞兎腸不似て粗大光あり秋初莖を抽て花を開く大二三寸菊花の如くあり

草名紫花地丁の一種ふく葉小五岐深齒あり夏後變りて兩岐とある春時花を開く形亦すくれ

北海道より來り一種の錦織紋種々あり然れとも紺地爪玉の龍を織れるもの多し五

枝小同く草木の幹より出する細き處をいふ万十五青柳の延太きりありむまゝまゝ

和枝條和名衣太類名和名衣太肥又肢テ

えぞのき

えぞす俗

媒とくする者あり

えぞち

らん

えぞろ

タチメ

えぞつる

テツルツル

えぞまめ

えぞち俗

えぞ俗

えぞの體言記下今科課役万六檀越やあのあひひそてくらわの課役はくらわあるあり

百姓の差役ふ充らるるを云記中為役之堤池而作百濟池

人は課役を充る哉いふ記下役秦人作法田堤及法田三宅

大豆の枝莖を連絡て枝たをいふ茹煮て其莖中の豆食ふ

岐ある路をいふ

匣の中小納れて人は贈る酒樽をいふ

えつまき (音)

えつさき

えつり

も用ゐる者あり 頭宗紀 取置蘆葎 蘆葎此云哀都利 和棧 棧乃衣

えて (俗)

ふ又 エテカッテ あど 意不任せ せ 私しるをもいふ

えと

を併せえとといふ

えどあごぎ

南部 (俗)

えとらひくひ (俗)

鳥名 鴻の一種 眼上は淡白條ありて 嘴脚黒き 者をいふ

草名 藜は同ト

よろこぶをいふ 慶節 悦喜

雀鷓の雄 みて 大頭鳥の如く 小鳥哉 捉る者をいふ 和雀賊 漢語抄云 和名悦哉

屋上の瓦及板を承る 所をいふ 小竹を以て 櫓の間は 排べ繩を以て之 戔纏へるものあり 茅屋あどと今

得手の字 哉用る 來れり 其事 小 巧あるをいふ 又 轉トて 事の 屢あるを エテアル エテスル あどい

十干をいふ 甲丙戊庚壬を 兄トて 乙丁己辛癸 を弟トて 併せえとといふ 又 轉トて 八干支

えどごうり (俗)

菜名 白茶は同ト

えどぎく (俗)

草名 えぞぎくは同ト

えどこんがり (俗)

草名 佛甲草の雄種をいふ

えどまげ (播磨 (俗)

豆名 菜豆は同ト

えどぜき (南部 (俗)

虫名 馬蠅は同ト

えどとらぐもん (伊賀 (俗)

冬瓜の形 長くして 三尺餘は 及ぶものをいふ

えどらり (俗)

豆名 菜豆は同ト

えどりの (俗)

木名 二色桃は同ト

えな

胎中の小兒を包み あり物 哉いふ 神代紀上 先 以淡路洲為胞 醫心 治胞衣 不出方 第十四

簾中舊記 公方さま 御えなを 御つき候 慶節 胞衣

えあをけ

胎衣桶ハ曲輪あり
高さ八寸程口の廣さ七寸ほぞ

胞衣を納て土に埋むる桶にて中世の禮あり
胡粉にて塗り雲母にて松竹鶴龜を畫くを常

えふ音

縁の音あり後撰戀五ふのみどり染けん松の
えふあふあふあふあふあふあふあふ袖あも浪をよせせん

えふ俗

灌木名枝細くして葉圓く深綠色其葉迎春に似
て互生に春末黄花を開く百脉根に似て大あり

○又草名播磨の俗きどのををいふ

えのあぶら

荏子の油をいふ七十一番職人哥合論張えの油
がたらぬげあ

えのきざけ俗

菌名あめすきよ同ド
胡椒をいふ

えのきざせり俗

揮霍して豪氣を示はをいふ

えばる俗

えひ

魚名形扁薄くして圓く周邊に鱗あり首蟾
蛤に似て眼大其口領下ふあり尾細長くして

尖り尾本小一刺ありて入哉蟹に種類多しあうえひを最といひ背淡黒黄赤色腹
白く中小紅斑相對せる者あり其他異品名其音の下に載せし和鱒魚和名衣比
料理書鱒の汁を柚の葉茂まぜてもこ
候て水よめて洗て

えび

雪をわけてあうてハえびのやうしてはりるをこるふ○草名蓼蓼をい
ふ今も上総まであふいふ

えび音

混むるうび宇藏開びざうり多くうびアあはめてえび丁子のあうびいれ
つのせたまひ和衰香俗比源末摘えびのあつりくりをりて花鳥餘情四香字

抄云採梅檀樹葉皮春篩爲香
故云葉皮

えびい日向俗

蝦魁の化石あり○石蝦

えびい俗

菘葉小同ド

えびあづら

蔓草あり葉葡萄に似て小く厚し又種々變
葉あり其下面深緑ふく背は白毛或は褐

毛あり夏月葉間小穗茂出一緑圓實を結ぶ南天より小あり熟まれば黒く味酸一○蓼萸記上乃生蒲子本和紫萸和名衣比○葡萄をいふ和葡萄云々漢
抄云葡萄衣比○又鬚茂もいふ源初音御ぐ一あじも云々
加豆良乃美えびくろ一くろくろひ給ふべき

えびが糸 薩摩俗

えびぐき 俗

えびざこ 俗

えびり

蝦夷境靈異下蝦夷衣比盛衰手四遠國のえびりといへどもあきけを志し禮義を辨るざり唐物語此時えびりの王ありそのものまありて申さく三千人までさふらひあひ給へる女御后いづれも一人給らんと申す徒然草上えびりひひくひべまず類名冠○又俗聞は商神をいふ風折えぼ一狩衣指貫を着て棘鬘魚釣上る像を居きこれを祭る盛衰記九彼岳不夷三郎殿と申神を奉祀岩殿と名附るあるとある神あるべし

えびいぐさ

草名苗の高さ二三尺葉排生して莖小互生ひ蚕豆葉の如くふしと薄小あり夏葉間小花を開く

筒辨五つ小分れて梅花の如く深黄色花萎して筒状結ぶ其子一頭尖り斜小そぎころの如一○馬蹄決明本和決明和名衣比○又草名地榆をいふ醫心地榆衣比須

えびいぐさ

草名春月紅芽を生して叢生を葉三枝九葉春末莖梢一花を開く牡丹小似て小あり花形數品あり常品ハ碎辨ありて花心を見たりえび上品の者を黄心茂露ひ花色紅白淡紅等種類多一本和芍藥和名衣比須久須利

えびいぐさ

草名地榆小同ト本和地榆和名阿也女多年一名衣比須祢

えびいぐさ

魚名鯽魚の一種まぶさの形ゆして肩小節ありて首至て小ある者をいふ

えびいぐさ

虫名石蚕の一種ありたいこむ一の下俣せ見べし

えびいぐさ

海菜名東北海に産び大あるは横幅尺餘長さ數丈淡黄ゆして西邊青黒色柔韌あり一韋の如一○昆布本和昆布和名比呂女一名衣比須女

えびいぐさ

紫色の淺き絨ゆ一衣服令九服色云々蒲藷蒲藷最淺者也縫殿容式蒲藷綾一匹紫草酢一合灰四斗

宇藏開 へびぞめの綺の直衣きりきそ 源藤末葉 あをきりあけのききあしるばるまきはうえ
びぞめあど ○又轉じて織物の名と云 桃花蕊葉 蒲萄染 經赤緯 藻塩ハぶくろい
ろ 紅ぬきそめたそ ○又重の色目よも 胡曹抄 蒲萄染 表蘇芳 裏花田

へびぞろ俗

蓼カサ蓼カサ小同ド

へびづる俗

前條小同ド ○加賀めて草名紫葛ネ茂ノよ

へびづるのむ俗

蓼カサ蓼カサの莖節間カサ小生カサざるカサ蠹虫カサあり小兒疳疾カサの藥
小用る

へびどり俗

鳥名魚狗カサ小同ド

へびね俗

草名形状白及カサ小似て濶短夏初莖を抽き十數花
を着亦白及小似り花褐色淡黄白等あり

へびのり俗

虫名水黽カサ小同ド

へびのき俗

木名合歡カサ小同ド

へびのこ俗

水中生物名紫梢花カサ小同ド

へびの尻紀伊俗

薄名聚藻カサ小同ド

へびのを紀伊俗

鰕屬名びちやもんへびカサ小同ド

へびら

といふ逆頰藤角藤柳藤等の目あり 盛衰カサささきだれカサ梅カサのえをカサあどひカサそ
へてさきカサたりカサるカサ云々平家のさんだちち花へびらカサといひありやきカサとロヤカサを
感ド給々カサ七十一番職人哥合 人心りけをうけをカサとさカサれカサるカサ腰はあれカサるカサ古へびら
哉 ○又蠶カサを入れて繭カサを作らカサむカサる器をいふ 和蠶簿カサ比良 夫カサ山里カサ六カサあカサのへびらカサ
すむ月のあけふカサもまゆカサの
まみちカサえカサり

へびを俗

金魚の一種其尾蝦カサ小似カサる者カサをいふ
○金魚

へふ俗

葉の音めて一ひら二むカサる物カサをいふ花辨の
へふ多カサいふ

へふ音

厭舞カサ同ド 塵袋カサされカサバ邪鬼カサを降伏カサ災殃
をけカサはカサかカサとある故カサ小最初カサ是カサをいふへふカサの亂

聲とて三度カサあカサをカサる

えぶりま 北海道俗

葉松寄生

落葉松ノ小生ぶる硬木耳あり質軽く黄白色其味苦烈ふいて腹痛積痛を治す北海道不産む○落

えいり 俗

鳥名、さんりのごる小同ト

えいり 音

えいりノ小同ト鳥帽子の音轉マ古來えの音小稱ト和鳥帽云々鳥帽子俗記鳥為合按鳥為或通見文選注玉篇等

太平三次小走り下部八人細えぶりノ小上一色家の紋の水干着て

えいり あけ

鳥帽子ノ取て掛置處の釘あり盛衰大床の柱ノえいりノあけノめさて

えいり 俗

鳥名、さんりのごる小同ト

えいり

帽あり冠袍あらざる時及身賤の者の禮冠あり然れども位階小因て形及漆小差別あり名目各條小

擧ぐ字拾十一頭小ふくろのえいりノを引入て續世継ハノあてノあてノえいりノとめりノぶりとめりノあてノせぬ人あり

えいり 俗

魚名、鯛ノ魚小同ト

えいり あや

男子加冠の時名残命くる人をいふ

えいり あき 南部俗

果名、鹿心ノ小同ト

えいり あひ 俗

介名、玉ノ斑小同ト○又介名、伊勢の俗ノ石ノ蛸をいふ○又介名、蚌の一種ノて水田溝渠中不産ト

て形小ある者をもいふとせがひの下併せ見なノ

えいり あき 石見俗

草名、鳥頭小同ト

えいり あき 東京俗

草名、百脉根小同ト

えいり あき 加賀俗

草名、鳥頭小同ト

えいり あき

鳥帽子を作る工をいふ七十一番職人哥合えいりノをり謠曲鳥帽ノ此わノるノえいりノ折ハ候ノぬノの

えいり

草名、蒲萄小同ト鑿心蒲陶衣比

えいり 音

縁の音ふて家の母屋あノざる所をいふ邊裔の義あり平家長門本ノのげとをノ北ノより第二けんの

えんふ居(うま)○又因縁の縁をいふ
流轉して出離のえんあるあ

えん(音)

えんもとまりぬらん

えむ(音)

ふさうふ源宿本えんふそふさむく花の露をりてあそびて
えんふすこのぼりはてあん

えんあんのぎ(音)

えんが(音)

ハ端ふつく是城垣下の座といふ中少將を饗應する請伴の心あり
北山ハ還饗大將先着垣下座上

えんごのハ(俗)

えんぎ(音)

歸命本願抄中 常小
宴の音みて遊宴をいふ 後撰奉 寛平の御時さく
らの花の宴ありけるふ 源野分 御前のつゆ前裁の

艶の字音あごめきこるをいひ又優美あるをいふ
字藏開 大将のあごめいづくよりぞわいとえんある

無宴穩座を併せ云へるあり 名目抄 宴穩座 江次
りいもとふ同トく饗應の時相伴の人の座をいふ
花鳥苗ひさりの座中少將の奥の方ふつき親王公卿

軒前此板ふて造りたる所

縁起の音みて神社又佛寺あごの起れる故城いふ
又靈験をいふ轉づく其事城記しる書をも

いふ類聚符宣抄 此宮從世初之時已爲日本之固其奇異縁起不可勝計 熱田縁起
但件神社舊依無縁起云々粗加繕寫有修縁起

えんぎ(俗)

えんぐと(俗)

えむげ(音)

えんごりさう(俗)

て高く吊れど其花の莖下ふ垂て猿猴の手の如き残以て此名あり
○又常陸筑波よそハびぎらん残いふ

えんごりのまくら(俗)

えんご(音)

えんど(音)

えんぢ(音)

時刻の延(のび)をいふ

べをいふ 下學 經粉又云膳 ○又綿脂脂ふ同ー○
又俗不紫色と赤色を混る画料をいふ

縁ある人の義みて婚姻あごの縁あるをいふ
園大曆十三 故玄忠法印直弟禪侶爲楠木縁者

甲陽軍鑑末書十 縁者戎變改一其外度々の表裏致され一ゆゑ

えんむぎやうり音

火災をいふ盛衰九今年三月廿四日信濃國善光寺炎上あり

えむ志よ音

艶書の音ふて男女の情書をいふ○又えんぞく唱ふ金葉戀上堀河院御時の艶書合詞花懸露集そ

れ艶書のうきやうりつてやうらふふくあましくもろくとあるしうくさめきたるがよきあり又堀川のとうどの御時えんぞく合あどの侍り

えんすゐ音

淵酔の音あり五節又ち臨時の大禮の後小藏人頭以下の諸臣を殿上不召て管絃属文孟酌の事ある

をいふ建武年中行事殿上の淵酔あり藏人頭以下ことふたへつるをのふだいむんふつ

えむせり音

焰硝の音あり即硝石をいふ古來加賀越中讃岐の産を最と筑前豊後美作飛騨安藝伊勢の

産あれ不亞慶節塩澁

えむそ音

塩酢酒醬等をも兼いへり慶節塩酢

えんだらり

筵敷敷て往來の道とまをるをいふ枕れいのえんだらり志きそあるに建武年中行事えんだらり

たんをまきそて屏風の下ふり

えむだろ

タツメえむ音

艶めく花いふ源えんぞくけきばまん人えきえりぬべきまのの様あめり

えん祢んさきり

王孫の一種不て大あり葉圓尖不て細長あらば三葉おと不草端不並び着て傘状をあら

中心莖を出し花を開く三瓣不て紫色或緑或白粉紅等あり

えん祢んさきり俗

草名えれさきりに同ト

えんのざ

宴座の音ふて賜宴の座席をいふ北山即撤宴座敷穩坐江次五宴座官廳之儀又西廳也上卿東面參

議西面

えむばい音

塩梅の音食物の味をいふ慶節塩梅

えんび音

冠の纓をいふ古製を燕の尾不似る故此名あり和纓俗燕尾

えむぶ音

閻浮提の畧あり勝金と譯す即南瞻部洲あり此土をいふ盛衰日本第一の伽藍也えんぶ無双

の大堂あれど 著聞^ニ 閻浮提之内三千世界之間可有^一可無^双

えむぶ 音

左司先奏厭舞次右司訖立合各二人

厭舞の音あり舞樂の初亂聲を奏し左右伶人辨を執て舞ふをいふ中發式然後奏厭舞訖儀式ハ

えむぶごごん 音

閻浮洲の金の義あり佛書小其金の佳品ある事をいふ故に佛家動もせれば此名を唱ふ大智度論三十五翻譯名義集三等其事詳ふせり平家二月蓋長者がちせのよつてアムラウラウ城よりえむぶごごんを取て

えむほり 音

烏帽子あり今えほりといふ真本字鏡^卷 塩帽^祭 保^字 類名烏帽^{一名} 名^義 類とあれど假字ハえを用ゆる

えむま 音

候とく^{灵昇} 下^{忽然死而至} 球^六 國^一 時王校之^{不合} 死^期 今改て引く

えんめい 音

佛家小いふ目めて冥界の王をいふ此小静息と譯に著聞^ニ えむま王宮より此御はくひ也けけむ延命の音なり長命をいふ字春日語 えんめいそくさいをむとて

えんめいさう 俗

草名ひきあし^一 同^ト ○播磨の俗はるはよ

えんめいぶくろ 俗

俗間小傳へそいふ實の名あり囊腹脹れて口邊括アたる囊をえんめい

えむら 音

えんま小同^ト 灵昇^中 時有^{閻羅王使} 入^來 召^光 師^一

えむり 音

いとひ離る意あり徒然^中 六塵の樂欲多^一 といへども皆厭離あつべし

えんれいさう 俗

草名えれさう小同^ト

えめむ 音

虫名蜘蛛小同^ト 字 蟬^{衣女}

えもぎ 音

草名艾小同^ト 慶節^蓬

えもん 音

衣紋の音ふて衣服制度着用等の法をいふ續世継ハ此大將殿をここの外えもんをぞ好む給て人のきぬの長さ短さあぶりの程あぶ細いふあつてめ給ひて

えやみ 音

瘧疾あぶりの天行病をいふ記^中 役病多起^人 民^死 爲^盡 和^疫 美^衣 夜^一 ○又瘧疾をいふ和^瘧 俗^云 衣^一 字

夜老也三

えやそぐさ

分る晝展び夜收る其色青碧ふくく斑點あり又白花の者あり種類多し本和

えよぼろ

役小立る丁をいふ仁徳紀差百鳥陵守充二役丁

えらび

らびふあまくいうむのりの人くたぐひ給む

擇の體言あり祝詞式大殿祭同殿能裏介塞坐三參入能選北所知源常木君ごちのかみあさ御え

えらぶ

くく此くびあつめえらむれて順集天曆五年

多くの中よ更抜出けをいふ神代紀下是後高皇古今序産靈尊更會諸神選當遣於葦原中國者上

えり

衣の領をいふ慶節襟衿袷〇又俗小轉トて頸をいふ

えりあくい俗

定粉をいふ女子頸此白粉の濃くん爲り傳る白粉あり

えりくづ

えりくび俗

選むれ残りる伐いふよううぬ意あり宇樓の上とあそのをりのえりくづとをあらんあとのたまふ頸をいふ

えりもき俗

頸小纏ひて寒戔防ぐ具あり絹帛ひて製匠近來を絨又ハ獸皮とを造る

えり

えりルンセ給ヘリ

えらぶ小同ト源常木中の品のけいうハあらぬえり出づべきころほひあり榮やく藤壺下のまを

えれさり音

草名又えんれいきりえんねきり深山の陰地小生び一根一莖高さ一尺許莖上小三葉相對一葉の狀心臟様ふくく端尖り中心小一梗を抽くこく二寸清明前後頃小一花を着く三瓣あり紫白淡緑あり又白くく紫を帯ぶるあり實ハ小暑前後小黒く熟く中小細子多し根ハ塊様をありて甚苦薬用しり



813.1-M753g



1200600628001

集約済 7冊

